

FONDATION LOUIS VUITTON

「バスキア×ウォーホル Painting 4 Hands」展

会期：2023年4月5日 - 8月28日

フォンドシオン ルイ・ヴィトン 春の展覧会を発表



**BASQUIAT X WARHOL.
PAINTING 4 HANDS
5 April - 28 August 2023**

Jean-Michel Basquiat, Andy Warhol, OP OP, 1984-1985

Collection Bischofberger, Männedorf-Zurich, Suisse

© The Estate of Jean-Michel Basquiat. Licensed by Artestar, New-York.

© The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ADAGP, Paris 2023

2018年、フォンドシオン ルイ・ヴィトンでは「ジャン＝ミシェル・バスキア」展を開催し、推定70万人の来場者を記録する大成功を収めました。2023年4月5日から8月28日まで、ジャン＝ミシェル・バスキアの作品を紹介し、アンディ・ウォーホルとのコラボレーションを公開する予定です。

ジャン＝ミシェル・バスキア（1960-1988）とアンディ・ウォーホル（1928-1987）は、1984年から1985年にかけて、それぞれのキャリアにおいて最も大きな作品を含む約160点の絵画を協力して制作し、

「à quatre mains」（4本の手）と名づけました。彼らの友情と共同制作を目の当たりにしたキース・ヘリング（1958-1990）は、「言葉の代わりに絵画を通して起こる会話」「二つの心が融合し、「第三の個性的でユニークな心」が生まれる」と語っている。

2023年春、フォンドシオン ルイ・ヴィトンで開催される「バスキア×ウォーホルPainting 4 Hands」は、この類まれな作品群に捧げられた、これまでで最も重要な展覧会となります。ディーター・ブッフハートとアンナ・カーリーナ・ホフバウアーのキュレーションと、フォンドシオン ルイ・ヴィトンのキュレーターであるオリヴィエ・ミケロンとの協力により、2人のアーティストが共同でサインした100点以上の絵画が一堂に展示される予定です。また、それぞれの作品に加え、他の主要アーティスト（キース・ヘリング、ジェニー・ホルツァー、ケニー・シャーフら）の作品も展示し、1980年代のニューヨーク・ダウンタウンのアートシーンのエネルギーを感じられる展覧会となります。また、1985年に開催された「ジャン＝ミシェル・バスキアとアンディ・ウォーホル展」のポスターのために制作されたマイケル・ハルスバンドによる有名な「ボクシンググローブ」シリーズなどの写真を織り交ぜ、さらに充実した展示にする予定です。



Jean-Michel Basquiat, Andy Warhol, Zenith, 1984-1985

Private collection, Israel, Courtesy Zidoun- Boussuyt Gallery, Luxembourg

© The Estate of Jean-Michel Basquiat. Licensed by Artestar, New-York.

© The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ADAGP, Paris 2023

展覧会は、ウォーホルによるバスキアのポートレートと、バスキアによるウォーホルのポートレートのシリーズで幕を開ける予定です。そして、初期のコラボレーション作品へと続きます。これらの作品は、二人のアーティストのディーラーであったブルーノ・ビショフベルガーが、イタリアのアーティスト、フランチェスコ・クレメンテ（1952年生まれ）とのコラボレーションをきっかけに制作を開始したものです。バスキアとウォーホルは、クレメンテとともにこの15点の作品を完成させた後、ほぼ毎日、意欲的かつ協力的な共同制作を行いました。この展覧会は、二人の絶え間ない交流のエネルギーと力強さが今回の展覧会を貫く原動力となります。

バスキアは、ウォーホルを芸術界の重要人物であり、新しい言語とポップカルチャーとの画期的な関係の開拓者である年長者として賞賛していました。同様に、ウォーホルは、バスキアの中に絵画への新たな関心を見出しました。彼（バスキア）のおかげで、ウォーホルは手動で非常に大きなスケールの絵を描くようになりました。ウォーホルは、新聞、ゼネラル・エレクトリック、パラマウント、オリンピックのロゴを題材に一連の作品を制作しました。これらは、展覧会を彩る一連の作品となっています。

「アンディは1つの絵を描き始めると、そこに何かとてもわかりやすいもの、あるいは商品のロゴを描いて、僕はそれを汚したりするんだ。それから、アンディにもっと描かせようと思って、少なくとも2つのことをさせようとしたんだ」とバスキアは説明します。「私はまず絵を描いて、それからジャン＝ミッシェルのように絵を描きました。誰がどの部分を描いたかわからないような絵の方がいいと思いました。」と、ウォーホルが述べています。

この展覧会では、2人の様々なスタイルと形状のやり取りを通じて、ウォーホルが描いていたアメリカ合衆国における工業製品の象徴的なアイコンの物語に、アフリカ系アメリカ人のコミュニティが組み込まれるなどの重要なテーマにも取り組んでいます。

[本件に関するお問い合わせ先]

afumi

担当：水野、ペスカトーレ

電話：03-6451-1568 Eメール：info@afumi.co.jp